

1. 東濃中部の医療提供体制検討会の実施状況

(1) 目的

地域医療構想を踏まえ、土岐市立総合病院と東濃厚生病院による東濃中部の医療提供体制の今後について、具体的な方向性を検討すること。

(2) 構成員 ※ 両病院長は第4回のみ

土岐市(副市長、総務部長、市民部長、病院長、同事務局長)／瑞浪市(副市長、総務部長、民生部長)／JA岐阜厚生連(理事長、常務理事、病院長、同事務局長)

(3) 実施回数

全4回／第1回(平成29年9月27日) 第2回(平成29年10月26日) 第3回(平成29年11月24日) 第4回(平成30年2月8日)

(4) 検討内容

- 東濃中部の医療提供体制の現状と課題及び課題解決に向けた岐阜県地域医療構想に基づく論点を整理
- 土岐市立総合病院と東濃厚生病院間における連携、統合等再編ネットワーク化の方向性について、市民の医療受診環境と病院経営双方の立場から、診療科確保、救急医療提供、医師確保、施設維持管理などの観点について具体的に評価
- 検討会での検討内容について、医師派遣元である大学医局や、医師会などの第三者である有識者から専門的な立場としての意見聴取し、結論に反映

2. 東濃中部の医療提供体制検討会における検討結果

＜東濃中部の医療提供体制における課題＞

- ◎ 少子高齢化で人口が減少し、医療需要の減少が見込まれる。
- ◎ 全国的な課題である医師の不足により、特に救急医療の提供が厳しくなる。

両病院が、さらに協力していかなければ東濃中部における救急医療の提供が危ぶまれる。

◎ 医療資源の集約化を図る必要がある。

医療需要に見合った病床規模を実現し、市民にとって必要十分な医療提供体制を構築するとともに、医師、看護師、コメディカル等にとって働きやすい環境を整備することにより、医療従事者の確保が見込まれる。

【東濃中部の医療提供体制検討会における結論】

- ◎ 東濃中部では、約400床程度の急性期(高度急性期を含む)・回復期病床数が適当(現在供給過剰)で病床整理が必要である。
- ◎ 整理の方向性として、1病院化が最も適当である。
- ◎ 再編(1病院化)の手法については、引き続き三者(土岐市・瑞浪市・JA岐阜厚生連)で継続協議する。
- ◎ 再編(1病院化)までの間、両病院(土岐市立総合病院・東濃厚生病院)が協力してNW化(病床機能分担)を図る。

土岐市、瑞浪市、JA岐阜厚生連の三者が、東濃中部の医療圏において将来に渡り安定的な医療の提供が図られるよう、継続的に協力していくことに合意し、供給過剰となっている病床整理を視野に引き続きさらなる検討を重ねていくこととする。